

(様式第4号)

第3回上田中央地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田中央地域協議会
2 日時	令和2年9月30日 午後1時30分から3時00分まで
3 会場	中央公民館3階 大会議室
4 出席者	天田委員、伊藤委員、岩田委員、金井委員、上嶋委員、小林みゆき委員、小林芳夫委員、瀬下委員、谷藤委員、成澤委員、半田委員、平澤委員、増沢委員、町田委員、丸山委員、満木委員、望月委員、山浦委員、山寺委員
5 市側出席者	【事務局】小泉中央地域振興政策幹、内藤地域内分権推進担当係長、大滝地域内分権推進担当主査、片山地域内分権推進担当主査 【説明者】田中危機管理防災課長、林危機管理防災担当係長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年10月5日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議

「上田市の防災計画について」

田中危機管理防災課長・林危機管理防災担当係長から説明

質疑応答

(委員) 上田市の被害状況について説明があったが、家屋等被害件数のうち住宅関連 470 件の具体的な内訳、例えば、自治連単位などで分かるのか。

(危機管理防災課) 確認して次回報告としたい。

(委員) 消防団についての説明がなかったが、地域密着型の団体で災害時一番最初に駆けつけて協力してくれるのが消防団である。水害時土嚢が必要になった際にも相談すれば真っ先に対応してくれる。自主防災組織の先に消防団がいる。消防団との連携も併せて説明して欲しい。

(委員) 土嚢について補足となるが、自治会と連携しており、土嚢の備蓄場所、補給手段については各自治会長に確認して欲しい。

(危機管理防災課) 今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から開催できなかったが、毎年自主防災組織のリーダー研修を行っている。その際の活動マニュアルには消防団との連携も示している。消防団は地域の防災力の要となっているため、引き続き連携・協力をお願いしたい。

(委員) 地域防災活動(避難場所開設)の組織について、市役所の体制として 365 日体制を取っているのか。

(危機管理防災課) 市で管理している指定緊急避難場所は一時的に身の安全を確保するために逃げる場所として 74 か所設定されており、中には屋根の無い広場もある。指定避難所はある程度避難生活を送れるような屋根のある場所で 67 か所ある。指定避難所については市の職員が開設担当として 2 名ずつ指定されており、夜間・休日等施設管理者が不在の場合に備えて鍵を施設から預かっている。災害時どこを指定避難所にするかについては、災害の種別に応じて市の災害対策本部で判断しており、本部の指示に従って開設担当者が指定避難所を開設する。地震の際は指定避難所の建物被害状況を確認してからでないと開設できないケースもある。

(委員) 第一次避難場所を開設する可能性がある際、タイムリーに被害状況を把握するため、各自治会へ前もって市の職員を一人ずつ張り付けておくことはできないか。

(危機管理防災課) 市職員は開設担当、運営担当、その他各職場において役割が分担されており、全自治会に人員を割くことは現実的にはできない。地域の皆さんと協力し合いながら進めていく形になるのが現実的と考える。

(委員) 居住地にもよるが、災害に対しての危機感が薄いように感じる。住民にどう危機感を持ってもらうかが一番の課題になっている。自治連で防災訓練を開催しても参加者は非常に少なく、防災意識が高い人のみの参加となっている。行政からも参加について提案をお願いしたい。

(危機管理防災課) 各自治連で通常の実施訓練の他に図上訓練を行うなど様々な取組みをしている。訓練を反復して行うこと、多くの方に参加してもらうことが重要である。出前講座などでも伝えていく。

(会長) 今後あと 2 回(10 月・11 月)危機管理防災課の職員が同席の上、協議を行う予定。防災関係の質問等あれば事前に事務局へ。12 月は各分科会に分かれて調査研究を開始する予定。

4 その他

今後の日程(年内)

第 4 回 10 月 26 日(月) 13:30

第 5 回 11 月 24 日(火) 13:30

第 6 回 12 月 21 日(月) 15:00

5 閉会